

29. 食料産業クラスター促進技術フェア(西日本)の開催

～「近畿地域アグリビジネス創出フェア」における開催概況～

1 食料産業クラスター促進技術対策フェア

2006年12月5日(火) グランキューブ大阪(大阪国際会議場:大阪市北区中之島5-3-51)において、食料産業クラスター促進技術フェアが、「近畿地域アグリビジネス創出フェア」¹との連携により開催された。

近畿地域アグリビジネス創出フェアは、特定非営利活動法人近畿アグリハイテクが主体となり毎年1回の頻度で実施し、本年度が4回目の開催となる。このフェアに連携し、フェア内で「食料産業クラスター促進技術パネルディスカッション」を行うとともに、隣接会場で関係機関・組織の事業等を紹介するパネル展示を行った。

ここでは、食料産業クラスターの取組み以外にも、特定非営利活動法人近畿アグリハイテクの活動報告、江崎グリコ(株)中央研究所 米谷俊所長による基調講演、パネル展示者によるステージプレゼンテーションのほか、農林水産省及び経済産業省の競争的研究資金の紹介、技術開発における知的財産化セミナー、地域産学官の各組織によるパネル展示など、各種催しが併せて行われた。

ここでは、「食料産業クラスター促進技術パネルディスカッション」を中心に、その他の催し等を含めレポートする。

2 開会とご挨拶

開会后、主催者・来賓を代表し、特定非営利活動法人近畿アグリハイテク理事長 佐々木義之氏、農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 佐々木昭博氏によるご挨拶を頂いた。

フェアの構成は、開会・挨拶が行われたホールにおいて、11:10より「特定非営利活動法人近畿アグリハイテクの活動報告」、11:30より「江崎グリコ(株)中央研究所 米谷俊所長による基調講演～共同研究、共同取組みを実施することの効用について～」、12:00より「展示機関によるステージプレゼンテーション」が実施され、昼食休憩を挟んで、13:40より「競争的研究資金の紹介」、14:40より「技術開発成果の知財化セミナー」が実施された。「食料産業クラスター促進技術パネルディスカッ



NPO法人近畿アグリハイテク 佐々木理事長のご挨拶



農林水産技術会議 佐々木研究総務官のご挨拶

ション」は、プログラムの最後として15:30～17:00の間で実施された。また、隣接する展示会場では、開催時間中、地域の大学、独立行政法人、公設試験場、民間企業、行政機関及び関連団体等による技術成果や事業の紹介がパネル展示形式で実施された。

フェア全体の参加者は、食品製造業、大学、独立行政法人、公設試験場、農業生産者及び団体、食料産業関連企業及び団体、行政関係者を中心に400名が来場した。

3 食料産業クラスター促進技術パネルディスカッション

3.1. パネルディスカッションの構成と概要

食料産業クラスター促進技術パネルディスカッションは、「食料産業クラスターの現状と今後の方向性」をテーマに、香川県小豆島町で開催されている「小豆島食料産業クラスター」の事例を参考に意見交換を行った

¹ 主催：近畿農政局、特定非営利活動法人近畿アグリハイテク、農林水産技術会議事務局、(社)食品需給研究センター、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター・近畿中国四国農業研究センター、(社)農林水産先端技術産業振興センター、(社)農林水産技術情報協会、(財)食品産業センター



小豆島クラスターの取組みを講演される 早川 茂 氏

先ず、基調講演を「小豆島クラスターの取組みについて」と題し、香川大学農学部副学部長 早川茂氏²に、小豆島食料産業クラスターの設立、大学の関わり、クラスターで取り上げている対象分野、クラスターの課題と現状の成果等について発表を行っていただいた。

-発表概要-

- ・産学官連携に向けた小豆島食料産業クラスターの取組み
- ・産学官連携における大学のスタンスと役割
- ・小豆島食料産業クラスターの取組みフロー
- ・小豆島の食品産業における現状
(オリーブ、しょう油、佃煮、手延べそうめん)
- ・小豆島食品産業の共通する課題
(機能性素材開発、マーケティング強化、残さ・排水処理)
- ・地域食品ブランド表示基準「本場の本物」取得 小豆島佃煮
- ・オリーブの機能性
- ・今後の方向性

3.2. パネルディスカッションの実施

コーディネーターに宮城大学食産業学部フードビジネス学科 教授 池戸重信氏³を迎え、パネラーには、兵庫県食品産業協議会 安全・安心アドバイザー 中川勝也氏⁴及びヤエガキフード&システム 株式会社 常務取締役



池戸 重信 コーディネーターと早川 茂 アドバイザー



パネラー(左 : 佐伯秀郎 氏、右 : 中川勝也 氏)

佐伯秀郎氏⁵に地域の代表として参加していただいた。

また、基調講演を行った早川氏にアドバイザーとして加わっていただき、計4名でのパネルディスカッションを行った。

ー討論の論旨整理ー

①はじめに (池戸コーディネーターより)

食料産業クラスターを促進していくには、農林水産省が進めるクラスターの単位である地域協議会、食品産業、コーディネーターや大学等の有識者の連携が不可欠である。

クラスター事業を支える行政、技術開発を担当する研究機関等、産学官のネットワークを確固たるものにする必要がある。

今回のパネルディスカッションでは、先に発表いただいた「小豆島食料産業クラスターの事例」を参考に、近畿地域で展開されている兵庫県の食料産業クラスターの

² 早川 茂：香川大学農学部副学部長。専門分野は、食品タンパク質の構造と機能の分子レベルでの解析。最近の研究テーマとしては、動物性の食品に含まれているタンパク質を研究材料としての研究などに取組むことに加え、小豆島食料産業クラスターの学術サイドのコーディネーターを勤める。

³ 池戸重信：前(独)農林水産消費技術センター理事長、現職の宮城大学では、食農関係論をテーマに研究活動を行うとともに、「食料産業クラスター」形成のためのコーディネート等も行う。

⁴ 中川勝也：前職、兵庫県立農林水産技術総合センターにおいて、青果物の流通・加工等に関する研究を実施。現在、兵庫県食品産業協議会 安全・安心アドバイザーとして、地域の食品製造業者への技術的なアドバイスを行うとともに、兵庫県の食料産業クラスターにも寄与している。

⁵ 佐伯秀郎：ヤエガキフード&システム株式会社 常務取締役。企業の概要は、農産加工施設での総合的な企画から設備の施工、製造、技術指導までサポートまで広範に亘る。また、酒造りから培ってきた醗酵技術を基礎に、機能性食品の開発等を行っている。



小豆島の取組みを紹介される 関 毅 事務局長

関係者の方から、推進にあたっての質問をいただき、コーディネーター及びアドバイザーがその質問に回答する方法で行った。

②小豆島食料産業クラスターと香川大学との関わり

Q：小豆島食料産業クラスターの設立と香川大学との関わりは、どのようにして進められたのか。

A：香川大学においては、国立大学法人化に伴い地域産業との連携や社会貢献としての大学の位置づけが求められていた。

そもそも小豆島の場合、クラスター事業を始める以前に、オリーブ、しょう油、佃煮等を対象とした産学官の連携枠組みが模索されていた。連携のパイプを繋いだのは、当時、(独)農林水産消費技術センターの理事長をされていた池戸氏であり、早川氏は池戸氏からの紹介で小豆島との関わりを持つに至った。

そのような仕組みが出来上がろうとしているときに、農林水産省において「食料産業クラスター」の取組みが開始された。

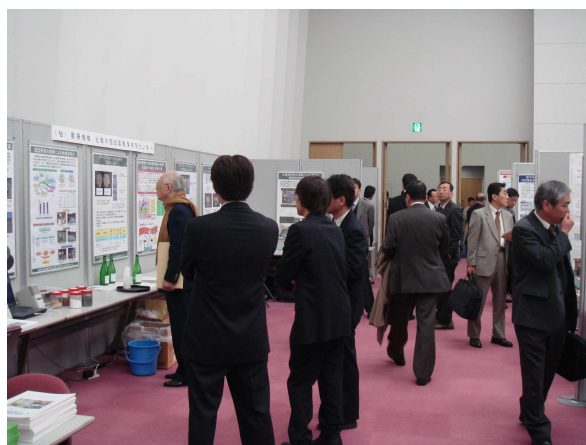
③クラスター参加者のモチベーションについて

Q：クラスターの場合、産学官の連携を中心とした枠組み構築があり、大学、企業はその枠組みとの関わりの中で、シーズとニーズのマッチング等が進められている。小豆島の場合、香川大学との連携を進めているが、兵庫県では地域大学との連携を効果的に構築するには、もう少々時間が必要である。

A：小豆島の場合は、大学が提唱する地域貢献とクラスターの取組みがマッチしたケースといえる。大学研究者の意識をクラスターに向けるための積極的な取組みや地域における課題解決に向けた具体的な対策が必要であり、そのためにはクラスター協議会等の推進機関の積極的な対応が求められる。

④参加している企業へのメリット

Q：食料産業クラスターには、参加者として地域の食品



パネル展示会場の様子

関連事業者が名を連ねている。具体的な企業のメリットとしてどのようなことが考えられるのか。

A：地域企業の課題抽出と対策検討、情報収集・情報提供や技術開発連携などがあるが、そのほかに、商品化提案、販売戦略構築などもあると思われる。

小豆島の場合、小豆島で作られる佃煮を対象に、国内原料を使用したものに限り、(財)食品産業センターが実施している地域食品ブランド表示基準「本場の本物」の取得が挙げられる。

クラスターの枠組みをとおして、地域独自性のある食品を開発し、地域ブランドを構築することで販売促進に利活用するといった事例が存在する。

パネルディスカッションでは、コーディネーターやパネラーとの意見交換以外にも、小豆島食料産業クラスター事務局である関毅氏による具体的な取組みの紹介と推進方策等の紹介も行われた。

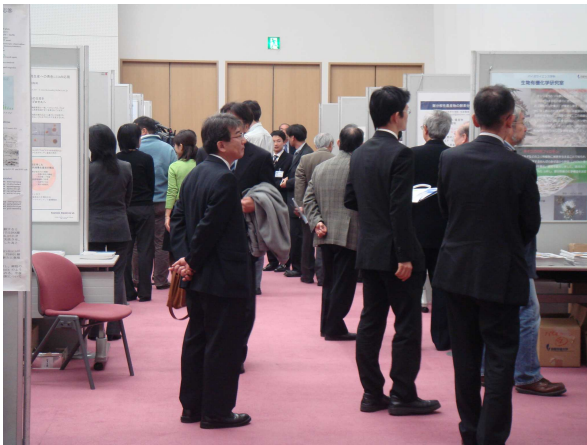
4 パネル展示

隣接する展示会場において、地域の大学、独立行政法人、公設試験場、民間企業、行政機関及び関連団体等によるパネル展示が行われた。

展示会場には、当日の参加者のほとんどが来場し、食品の産学官連携やそれに資する多くの技術開発情報の提供や関連組織等が実施する事業等の取組みが紹介された。



小豆島クラスターの概要をご覧になる坂下小豆島町長



パネル展示の様子



会場受付の様子

(文：社団法人 食品需給研究センター 長谷川 潤一)